



青森県教組養護教員部 2019.4.26.

折々のことば

鷲田 清一 1442

あの人、「伝える」言葉を「伝わる」かたちに
する名人でした。

井上一夫

伝えたつもりが伝わっていないことがある。放送作家・作詞家の永六輔は、とくに思いを伝える時、市井で耳にした大事なことを伝える時は、逆に丁寧に「笑いをまぶして」いたと、彼の本を手がけた元編集者は言う。教育もきつと同じ。教える者がこころの底、そこにいけば子供が勝手に育つような大らかな場所を用意しておくことが先だろう。「伝える人、永六輔」から。

2019.4.24



保健だよりによく使ったカット

6月29日(土)10時~

<県教組養教部総会> 県教育会館にて。

職場のこと、子どもたちのこと、保健室のこと...などお話し合います。元気が出ます。あなたのスケジュール帳に入れておいてね。

全教共済に入っていますか。総合共済は月々600円。退職時に全額戻ります。おすすぬ。

お元気ですか。

4月一忙しかったことでしょう。ようやくお休みに入れますね。

物事をスタートさせるというのは大変なエネルギーを要するものなんです。昼食後の歯みがきにしても掃除にしてもただやるのではなく、「大事なことはなんだよ」とその意義を説いてスタートする。毎年毎年その繰り返しです。この繰り返しは習慣に結びつくのだと思います。大切なのは、伝える者の「熱さ」。私たちの熱さが子どもたちに届いたとき変化が起るのではないのでしょうか。

それにしても1か月お疲れ様でした。連休は好きなように過ごしてください。お出かけよし、花・土いじりよし、眠るのもよし、家事三昧よし。お子さんのいる方はいっほいめんがうってください。

(これが届くのは連休明けですね、ごめんね)



文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

いい本です、お勧めします。2017年3月にも紹介しました。

昨年の4月にも載っています。

『ルポ 保健室』

子どもの貧困・虐待・性のリアル

あきやま ちか 秋山千佳

朝日新聞出版

おわりに

どうして子どもたちは、保健室の中だとこんなに自然体になるのだろう。これまで触れてきたように、成績で評価されないから、とか、否定されないから、というのほもちろんある。でもそれだけだろうか。

さながら「透明人間」のように中学生と養護教諭のやりとりを眺めているうち、はたと気づいた。生徒だけではない。対する養護教諭に、取り繕うようなところがないのだ。心になんか言わない。わからないことはわからないと認める。子どもだからと下に見ることなく、一人の人間として尊重する。相談に対しては「どうしたの」と耳を傾け、熱っぽいと言われれば「どれどれ」と額に手で触れ、五感と神経をフル稼働して向き合う。

言葉にするとは簡単なようで、どれだけの大人が実践できるだろうか。この「発見」を養護教諭に伝えると、相手は「そんな当たり前のことか」と笑った。「養護教諭が飾らない自分でいいよ」と、生徒はありのままを出せないんじゃないかな。だって相手が飾ると自分も飾らなきゃいけませんから。やっぱり保健室って、生徒のありのままを受けとめる場なので。

ありのままの関係性。それこそが、保健室の一番の魅力だった。その関係性があるから、誰もが見逃すような小さなSOSが、ここでは表面化するのだ。

(略)

本書に登場する子どもたちは、生きづらさをそれぞれに背負っている。ただ彼らにとって救いなのは、保健室にたどり着くことができ、真摯に向き合ってくれる養護教諭と出会えたことだろう。本書の学校や子どもたちは、決して特別な存在ではない。同じように苦しんでいる子どもたちが、通っている学校次第では救われない、ということがないようにするのは、大人の喫緊の責務だ。

保健室でありのままの関係性を見せてくれた養護教諭と生徒(元養護教諭と元生徒)に、最大限の感謝を捧げたい。取材では、保健室で1日11時間を過ごしたこともあるほど、養護教諭の業務に負担をかけた。それでも快く取材に応じてくれ、帰路はいつも胸が熱くなった。どの先生から、子どものことを伝えたいという情熱がほとばしっていた。

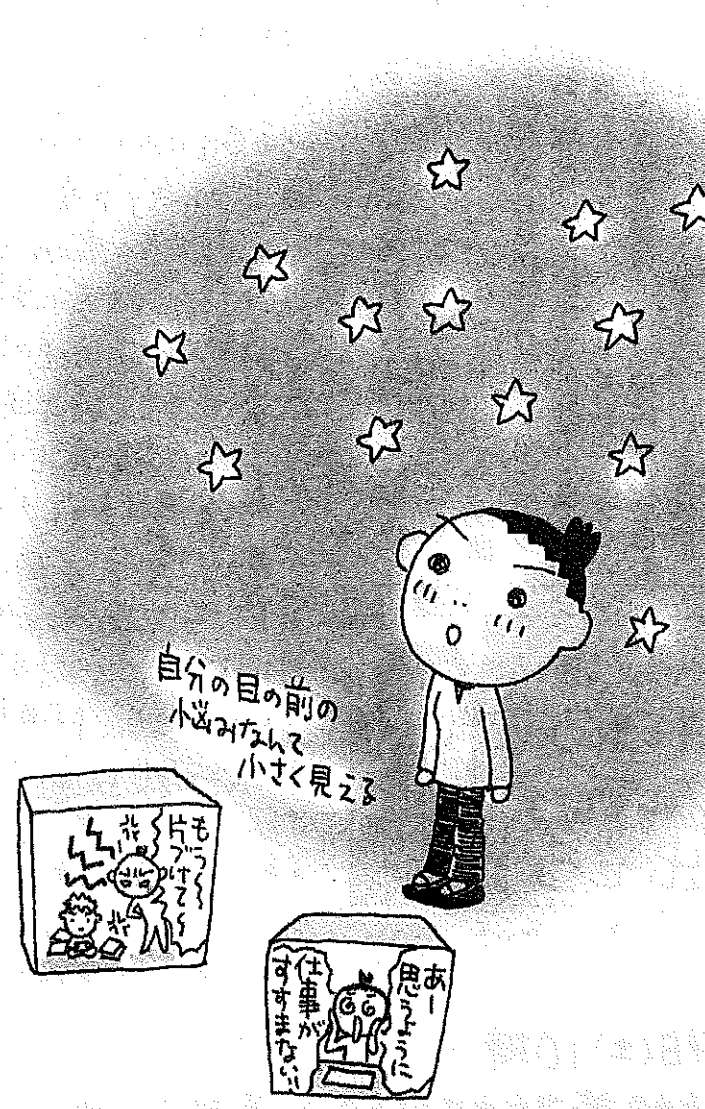
(略)

3月下旬に2泊3日で沖縄に行ってきました。日本生協連主催の「第36回 沖縄戦跡・基地めぐり」にコアみおりの組合員として参加できたのです。ショックを受けたのは、沖縄には鉄道がないということ(知らなかった)。地上戦で破壊されたまま、その後造られていません。そのため車社会になっており渋滞が多く、大変な思いをして暮らしています。「村度道路」も、沖縄にレールを敷いてほしい。辺野古はとて、お静かには祈る。白砂が美しいから...

「キッパリ」

●気持ちから、変えてみる!

夜空を見上げる。



幻冬舎 上大岡トメ

オトナになって、コドモの頃より明らかに空を見上げる回数が減りました。日々、自分のまわりの出来事に精一杯だから、余裕がないのかな。都会にいて、星もあんまり見えないし。っていいながら、私がいるところは、都会じゃないけれど。たまには、5分ほど夜空を見上げてみよう。

月並みだけど、あまりの空の大きさに、自分の抱えていることが小さく見えるんです。星の一生のスケールに比べて人間の一生はあまりにもあっという間。夜空を見るとそう思うから、改めて毎日を大切にがんばろうっていう気になります。

ちなみに空を見上げる頭の角度は、首や肩のコリをほぐすのにいいらしいです。

心と肩のコリをほぐそう。

